

## 整備計画における貯留施設の検討 (既設ダム及び遊水地)

### 1. 検討内容

- 本資料は、第 40 回流域委員会資料 2-9 において示した、整備計画における貯留施設の分担量に関する検討資料である。
- 本検討資料における貯留施設は既設ダム（青野ダム）および遊水地（県有地）である。

### 2. 検討条件

- 本検討での整備計画目標は 1/30 規模としている。(H16.10.18 型降雨)
- ここでは、流域対策効果量は見込んでいない。

#### 2.1 青野ダム

- 現行の青野ダム操作規則は、予備放流方式による 100m<sup>3</sup>/s 定量放流となっている。
- 事前放流は、超過洪水対策として一時的に治水活用するものであり、青野ダムでは、水位の回復が見込めるような大きな洪水（台風など）時の実施を考えている。
- 現行の予備放流（80 万 m<sup>3</sup>）に必要な時間は約 4 時間である。別途、180 万 m<sup>3</sup>の事前放流を行う場合は、さらに約 5 時間必要となり、合計の放流時間は約 9 時間となる。
- この事前放流により治水容量を確保した場合、「100m<sup>3</sup>/s 定量放流」から「50m<sup>3</sup>/s 定量放流」に変更可能となる。
- 現在、事前放流を治水計画に位置づけた例はないが、武庫川の整備計画レベルの流量分担に反映させる方法を検討していく。

**青野ダム諸元一覧表**

項目	諸元	
操作規則	100m <sup>3</sup> /s 定量放流	事前放流実施時は 50m <sup>3</sup> /s 定量放流
治水容量	治水容量 5,600,000m <sup>3</sup> (上記の内、予備放流で 800,000m <sup>3</sup> 確保)	事前放流実施時は治水容量 7,400,000m <sup>3</sup> (上記の内、予備放流と事前放流で 2,600,000m <sup>3</sup> 確保) (1.4m 低下、1,800,000m <sup>3</sup> 増加)
サーチャージ水位	E.L.184.0m	変更なし
常時満水位	E.L.181.2m	変更なし
ダム地点 洪水調節量	248m <sup>3</sup> /s (Qin=348m <sup>3</sup> /s、 Qout=100m <sup>3</sup> /s)	事前放流実施時は 298m <sup>3</sup> /s (Qin=348m <sup>3</sup> /s、Qout=50m <sup>3</sup> /s)

### 2.2 遊水地

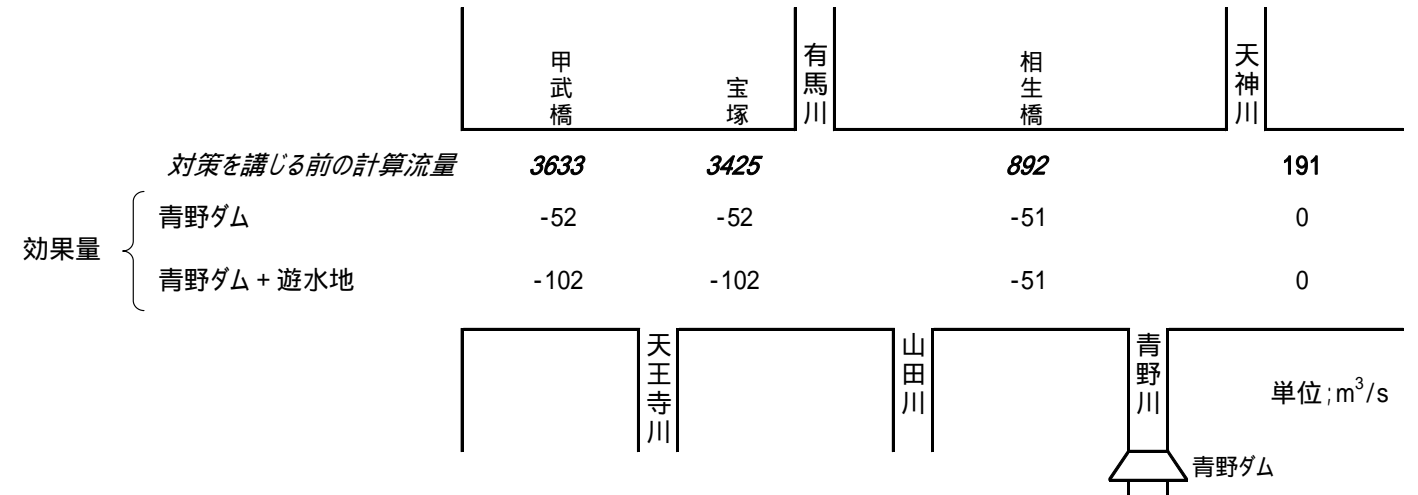
- 遊水地位置は、県有地（浄化センター増設用地）とする。
- この県有地は、現在、下水道整備の将来計画に位置づけられている。したがって、この敷地を遊水地として使用することは、下水道計画を変更できることを前提としている。
- 越流開始流量は、1/30 規模に対して最適化を行っている。

**遊水地諸元一覧表**

項目	諸元
遊水地面積	5.3ha
遊水地容量	217,000m <sup>3</sup>
越流開始流量	2,260m <sup>3</sup> /s
遊水地地点洪水調節量	69m <sup>3</sup> /s (遊水地上流 Q=2329m <sup>3</sup> /s、遊水地下流 Q=2260 m <sup>3</sup> /s)

### 3. 検討結果

- 青野ダムのみで約 50m<sup>3</sup>/s の効果量、青野ダム + 遊水地で約 100m<sup>3</sup>/s の効果量であるために各々 50m<sup>3</sup>/s の分担量となる。



”対策を講じる前の計算流量”は青野ダム有り(100m<sup>3</sup>/s定量放流)の場合で、各地点でのピーク流量を示している。

#### 青野ダム及び遊水地による効果量算定結果 (H16.10.18 型降雨)